

山中比叡平自治連合会まち協設立状況調査

文責 庭山

日時： 9月28日（月） 14時 － 16時

場所： 山中比叡平市民センター 2階大会議室

出席者： 山中比叡平まち協

会長・持田氏 事務局長・最上氏 臨時職員・高橋氏
小野学区

岩田自治連会長 内田朝日2会長 徳岡朝日2副会長
高野社協会長 伊藤自主防犯会長 庭山

目的： 大津市で最初にまち協に取り組んだ山中比叡平学区のまち協立ち上げの経過と現状、課題を調査し、小野学区まち協の構想策定と設立準備の参考とする。

山中比叡平学区：

自治会数 5
世帯数 1, 266
人口 2, 731（2020年9月1日現在）
自治会加入率75% 高齢化率42%（1151人）
自治会費 4, 200円／年 から 4, 800円／年
自治会からまち協への拠出は、自治会報償金を含めて一軒当たり
2, 050円であり、小野学区に比べて非常に高額。

まち協設立の目的

地域の人口減少・少子高齢化が進む中で地域がまとまって連携する必要がある。更に公民館のコミセン化を図り学区に活気を取り戻す為の前提条件として、まち協の立ち上げが必要であった。

まち協の現状

- * 2020年2月に設立したが、準備に2年を要した。
- * まち協はほぼ自治連合会が移行したもので、その為、屋上屋を重ねる組織にはなっていない。
- * 事実、自治連・まち協の会長・事務局長はいずれも兼任である。
- * 事務局は11名で構成（実質的戦力は5～6名）
- * まち協は単位自治会の会長、専門部会の会長、まち協役員、コミセン代表者など約25名で運営委員会を構成している。
- * まち協役員と単位自治会会長の会議は毎月行われているが、専門部会長などを交えた会議は隔月に行われている。
- * まち協の会員には非自治会員も含まれるが、非自治会員に対しては公共の配付物や防災関係の配付物を配るだけで、それ以上にまち協の活動に組み込むには到っていない。
- * まち協には専門部会が6つ置かれている。

防犯・防災専門部会、教育・生涯教育専門部会、健康・社会福祉専門部会の3専門部会には既存の関係団体が複数所属している。

残りの地域振興専門部会、環境専門部会、公共交通対策専門部会の3専門部会は新設されたもので、部会を担う人材は関係団体を含め、PTAや各種行事で頑張る人たちから見出している。

- * 現時点では、これら3新設専門部会は会則や、役員、予算、事業計画、総会などの独立組織としての機能を有しておらず、まち協下の部会組織である。

一方、従来の関係団体は、今も、予算、役員、事業計画、総会の機能を有していて、独立組織としての活動を継続している。

まち協と自治会や関係団体、専門部会の関係：

- * まち協と単位自治会との関係は、従来の自治連と単位自治会の関係準にしている。
- * 既存関係団体は防犯・防災専門部会、教育・生涯教育専門部会、健康・社会福祉専門部会の3専門部会に所属してメンバーとして活動している。将来的には専門部会に統合したいが、未だ統合への明確なタイムスケジュールは持っていない。
- * 関係団体は今も従来の、予算、役員、事業計画、総会の機能を持った独立団体であるが、新設の3専門部会は未だまち協下の部会組織である。将来的には専門部会を予算、役員、事業計画、総会の機能を持った独立組織とし、関係団体はその中に取り込みたい。
- * 3年後を目途に、大津市からの補助金は一括してまち協で受領し、専門部会に配分するようにしたい。
- * 従来の連合自治会と単位自治会・関係団体の関係から、まち協、単位自治会と専門部会組織に移行したいと思っているが、移行は簡単ではなさそう。
- * まち協会長や事務局で大きな構想を描き、具体的な活動への落とし込みや実施は専門部会で行うイメージ？

コミセンについて

- * 2020年4月設立済。
- * コミセンの運営形態は、運営業務委託のパターン2を採用。
- * 公募で、常勤臨時職員の男性1名（自家営業デザイナー職で9時～17時勤務）と嘱託職員の女性2名（機関誌の編集、経験者で2人合計の勤務日が週5日）を採用。
- * コミセンで採用した常勤臨時職員の男性（嘱託職員の女性2名も？）はまち協の仕事もしているようで、大いに戦力になっている様子。
- * 山中比叡平学区ではコミセンにおける社会教育運営への関心が薄い。
- * 大津市からの委託料は約550万円。
- * 数年内にNPO化の構想あり。
- * 事業案として、花火大会の有料観覧席、有料テニスコート、「ふれいあいの杜」でのバーベキュー等の開設が構想されている。